

第20回日本医療情報学会  
看護学術大会

## 演題募集要項

## 演題募集について

口演と示説（ポスター）の2種類を募集します。

示説のうち希望される方には電源を提供いたします。これにより、映像機材などを併用した発表も可能です。

### I. 口演・示説発表共通事項

#### 1. 募集期間

2019年2月1日（金）～ 5月31日（金）17時必着

#### 2. 募集資格

特に定めません。どなたでも応募できます。

#### 3. 募集テーマ

大会テーマは、「看護の知と技の継承～看護師がすること、AI・IoTに委ねること～」です。

一般演題では、看護と情報に関する実質的なテーマを広く募集します。

- ① 病院情報システム
- ② 地域連携における情報共有
- ③ 看護計画・看護記録
- ④ 看護業務改善
- ⑤ 医療安全における情報技術の活用
- ⑥ 看護サービスの評価
- ⑦ 看護情報教育
- ⑧ 看護管理における情報分析と活用
- ⑨ 病院マネジメント
- ⑩ その他

#### 4. 応募方法

演題申込書を大会ホームページからダウンロードし、必要事項を入力の上、大会事務局宛にメールにてお送りください。

ファイル名は「演題申込\_氏名\_所属.xlsx」としてください。

例：「演題申込\_〇〇〇〇\_△△△△.xlsx」

↑            ↑  
氏名          所属

大会ホームページ：<http://jami-ni-tokyo2019.org/>

申込先メールアドレス：[jami2019-ml@east.ntt.co.jp](mailto:jami2019-ml@east.ntt.co.jp)

別紙1参照

## 5. 採否通知

プログラム担当者と大会事務局で審査の上、6月中旬頃にメールで通知いたします。  
なお、採否通知の際に発表形式の変更をお願いすることがあります。  
採択された演題については、論文集掲載用の抄録を作成いただきます。

## 6. 抄録作成・提出方法

テンプレートを大会ホームページからダウンロードし、偶数ページ(2ページまたは4ページのいずれか)で作成してください。作成にあたっては、注意事項および記入例をご参照ください。作成した抄録は、大会事務局宛にメールにてお送りください。ファイル名は「抄録\_氏名\_所属.docx」としてください。

別紙2・3参照

例：「抄録\_〇〇〇〇\_△△△△.docx」

↑            ↑  
氏名        所属

大会ホームページ：<http://jami-ni-tokyo2019.org/>

送付先メールアドレス：[jami2019-ml@east.ntt.co.jp](mailto:jami2019-ml@east.ntt.co.jp)

※送信後3日以内(土日祝除く)に受領メールが届かない場合は、大変お手数ですが電話でお問い合わせください。

## 7. 抄録提出期限        2019年7月19日(金)15時

## 8. 査読後の修正について

提出いただいた抄録は、査読を行います。査読の結果は、全ての方にメールで通知いたしますので、提出後もメールをご確認くださいようお願いいたします。

## 9. 利益相反(COI)状態の開示方法について(発表時)

学会当日の発表の際には、下記の例を参考に利益相反状態の開示をしてください。  
口演の場合はスライド1枚目に、示説(ポスター)の場合は最後に記載してください。  
なお、次の開示例は「日本医療情報学会の利益相反について」を参考にしています。

### 例 1. 開示すべき事項がないときの COI 開示例

<p>第 20 回日本医療情報学会看護学術大会</p> <p>COI 開示</p> <p>演題名：○○○○○○○○○○</p> <p>筆頭演者名：△△ △△</p> <p>私が発表する今回の演題について開示すべき COI はありません。</p>
--

注 1) ポスター発表は「演題名」「筆頭演者名」を省略してもよい

### 例 2. 開示すべき事項があるときの COI 開示例

<p>第 20 回日本医療情報学会看護学術大会</p> <p>COI 開示</p> <p>演題名：○○○○○○○○○○</p> <p>筆頭演者名：△△ △△</p> <p>私が発表する今回の演題について開示すべき COI は以下のとおりです。</p> <p>研究助成金：所属施設において承認済</p> <p>奨学寄付金：○○○○株式会社</p> <p>原稿料：○○○○製薬</p> <p>講演料：○○○○株式会社</p> <p>役員・顧問等の就任：○○○○株式会社</p>
--

注1) 発表や講演の内容に関係する、演題応募時から遡って1年間の利益相反状態を記載。

注2) 開示すべき事項がある項目のみ記載。

注3) 所属施設の利益相反の指針・規程等によって承認を得ている場合は、「所属施設において承認済」と記載。

注4) ポスター発表は「演題名」「筆頭演者名」を省略してもよい

例 3. 企業の方が大学の研究者として籍を置くなど、複数の組織や団体等に所属している  
場合の COI 開示例

<p>第 20 回日本医療情報学会看護学術大会 COI 開示</p> <p>演題名：○○○○○○○○○○</p> <p>筆頭演者名：△△ △△ ((□□□□大学、○○○○株式会社)</p> <p>私が発表する今回の演題について開示すべき COI は以下のとおりです。</p> <p>(□□□□大学)</p> <p>研究助成金：○○○○株式会社</p> <p>奨学寄付金：○○○○株式会社</p> <p>(○○○○株式会社)</p> <p>旅費：◇◇◇◇株式会社</p>
--

注 1) 発表や講演の内容に関係する、演題応募時から遡って 1 年間の利益相反状態を記載。

注 2) 開示すべき事項がある項目のみ記載。

10. 演題申込先・問い合わせ先

第 20 回日本医療情報学会看護学術大会 事務局

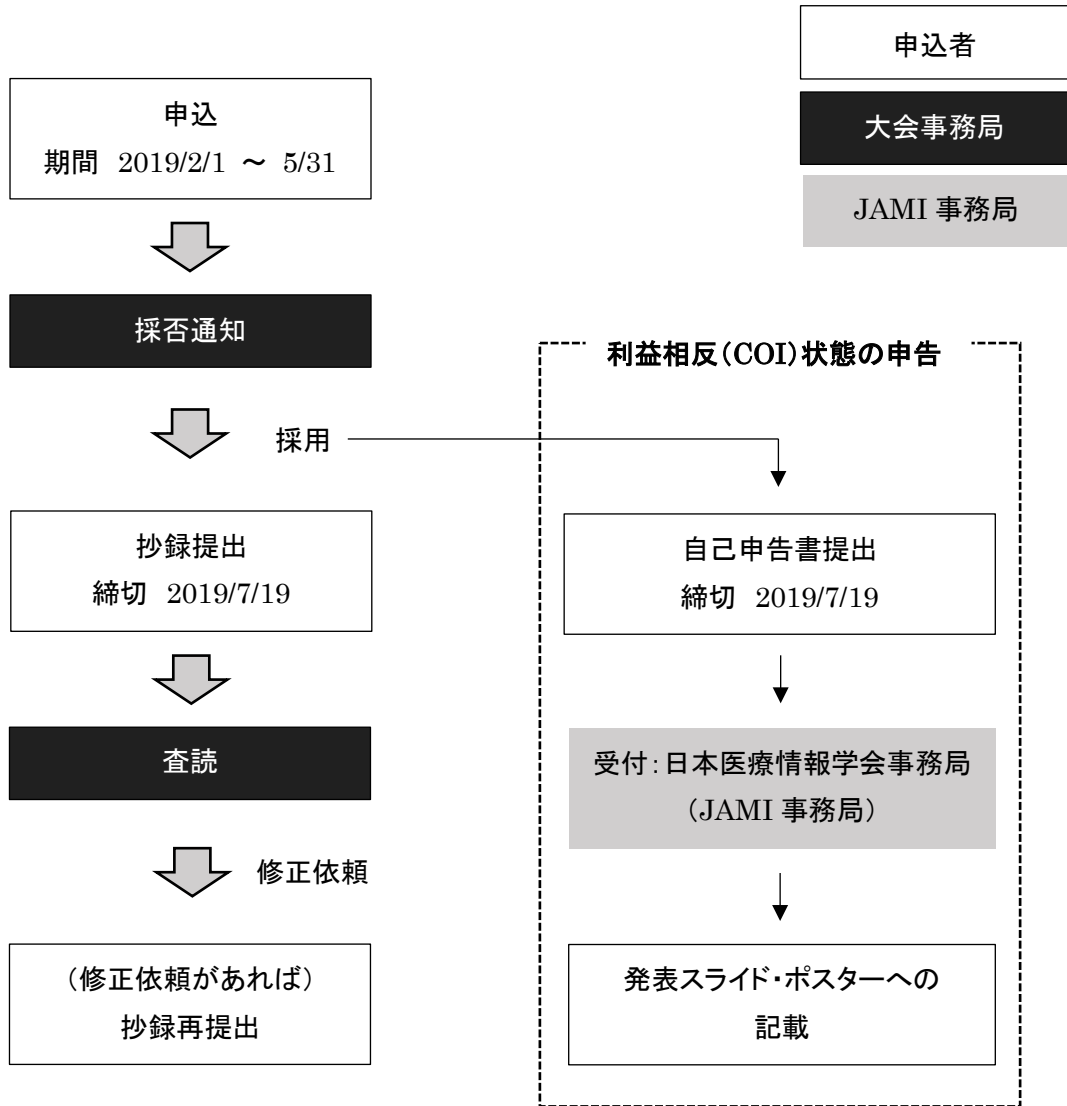
NTT 東日本関東病院 看護情報システム担当

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5 丁目 9 番 22 号

TEL : 03-6721-6322

E-mail : jami2019-ml@east.ntt.co.jp

# <演題申込の流れ>



## 【利益相反(COI)状態の申告について】

9項に記載の「利益相反状態の開示」とは別に、日本医療情報学会へ「筆頭演者の利益相反自己申告書」の提出をお願いしています。手順等については、下記をご確認ください。

<http://www.jami.jp/about/jami-coi.php>

(日本医療情報学会ホームページより一部転載)

研究・開発成果の発表時(口演発表、ポスター、ハイパーデモ、ランチョンセミナー等)、所定の様式にて利益相反状態を開示する必要があります。

- ・対象者：日本医療情報学会が主催する学術大会、研究会、講演会などにおける筆頭発表者・筆頭講演者であり、会員・非会員の別を問いません。学生、企業の方の発表も対象となります。
- ・開示する内容：筆頭発表者・筆頭講演者、その配偶者、一親等の親族、生計をともにするものも含めて、当該発表・口演に際して、演題応募時から遡って1年間の、当該医療情報学研究に関連する企業や営利を目的とした団体との利益相反状態の有無を、所定の様式にて開示する必要があります。
- ・申告：詳細抄録提出時に様式 1-A により自己申告をお願いします。

※自己申告の記述に該当するが、所属施設の利益相反の指針・期待等によって承認を得ている場合は、様式上の企業等の記載は不要です。

「筆頭演者の利益相反自己申告書」は、今大会ホームページからダウンロードしてください。

大会ホームページ：<http://jami-ni-tokyo2019.org/>

### ●利益相反自己申告書提出方法

提出方法等についての詳細は、[日本医療情報学会ホームページ「日本医療情報学会の利益相反について」](#)を必ずご参照ください。

利益相反自己申告書提出先・問い合わせ先

日本医療情報学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17-17 井門本郷ビル2階

TEL：03-3812-1702 / FAX：03-3812-1703

E-mail：office@jami.jp

### ●利益相反自己申告書提出期限

2019年7月19日(金) 15時

## II. 口演発表に関する事項

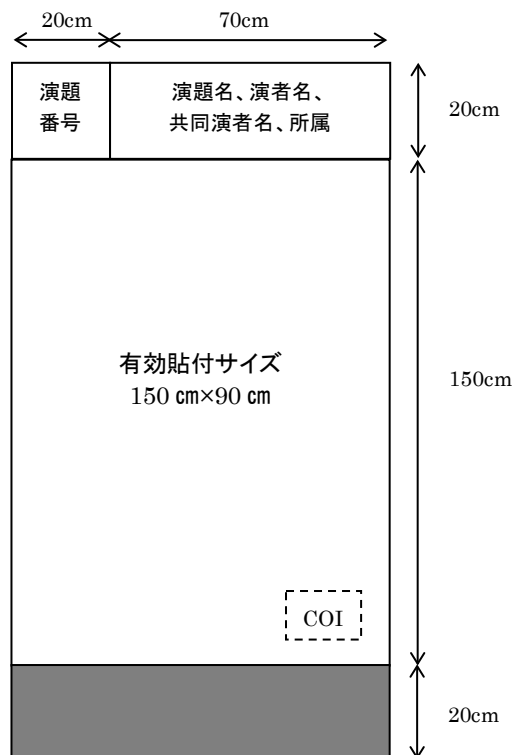
- (1) 発表時間は1 演題につき15 分間（発表10 分、質疑応答5 分）とします。（予定）
- (2) パワーポイントを使用したプレゼンテーションとします。音声がある場合は、演者用マイクでPC の音声を拾ってください。

より詳しい発表方法や使用機材等に関する情報は、2019 年7 月頃に大会ホームページ「座長・演者の方へ」でご案内する予定です。必ずご確認ください。

## III. 示説発表に関する事項

- (1) 発表時間は1 演題につき10 分間（発表7 分、質疑応答3 分）とします。（予定）
- (2) ご自身のポスター前で発表していただきます。
- (3) 縦210cm×横90cm のボードをご用意する予定です。ポスターの貼付面の大きさは、縦150cm×横90cm です。目安としてA0 縦1 枚、A4 横で縦7 枚・横3 枚程度貼ることが可能です。ポスターサイズは自由ですが、貼付面に収まるサイズで作成してください。

### 【レイアウト図】



- (4) 演題名、演者名、共同演者名、所属は各自でご用意ください（縦20cm×横70cm）。
- (5) 演題番号と貼付用の画鋏等は、大会事務局で準備します。

より詳しい発表方法や貼付・撤去時間等に関する情報は、2019 年7 月頃に大会ホームページ「座長・演者の方へ」でご案内する予定です。必ずご確認ください。



宛 先 : jami2019-ml@east.ntt.co.jp

申込先 : 第 20 回日本医療情報学会看護学術大会 大会事務局

**第 20 回日本医療情報学会看護学術大会 演題申込書**

申込日 2019 年 月 日

希望演題(いずれかに○をつけてください)

( ) 口演	( ) 示説<電源不要>
	( ) 示設<電源必要>

演題名

--

発表者

<氏 名>	
<所 属>	
<連絡先> 電子メール :	
電話番号 :	FAX 番号 :

概要(400 字以内)

--

演題カテゴリー ※以下のうち、最も近いものを選択してください

(番号 : )

- ① 病院情報システム
- ② 地域連携における情報共有
- ③ 看護計画・看護記録
- ④ 看護業務改善
- ⑤ 医療安全における情報技術の活用
- ⑥ 看護サービスの評価
- ⑦ 看護情報教育
- ⑧ 看護管理における情報分析と活用
- ⑨ 病院マネジメント
- ⑩ その他

## 論文集掲載用の抄録作成の注意事項について

- 大会ホームページ (<http://jami-ni-tokyo2019.org/>) に掲載されている抄録のテンプレートを用いて、偶数ページ (※最大 4 ページまで) で作成してください。印刷の都合上、1 ページまたは 3 ページでの作成はご遠慮ください。
- 印刷に支障を来しますので、余白を変えないでください。また、ヘッダー・フッター欄には何も入力しないでください。
- フォントや文字の大きさはテンプレートに合わせてください。
- 文献の書き方は、下記の例やテンプレートおよび記入例を参考にしてください。
  - 例 1) 多仲浩志. 医学・生物学における数学論理. 医療情報学 2008 ; 28:5, 13-26.
  - 例 2) 桂太郎. 医療情報の標準化. 新版医療情報「医療情報システム編」,  
篠原出版新社, 2009: 224-40より詳しい記載方法は、日本医療情報学会の学会誌「医療情報学」の投稿規程 (<http://jami.jp/document/doc/tokokiteiNew.pdf>) をご参照ください。
- 本大会の抄録には、英文で記載する箇所はありません。題名・氏名・所属等についても英文は不要です。(図表の説明についても、英文表記はご遠慮ください。)
- 句読点の指定はしませんので、「。」および「、」を使うことができます。(学会誌「医療情報学」では「.」および「,」を使用していますが、本大会抄録では、これを緩和しています。)
- 論文における研究倫理、個人情報の保護、利益相反については、日本医療情報学会の学会誌「医療情報学」の投稿規程を準用します。要点は、下記のとおりです。

## 1) 研究倫理

- ・ 事実に基づかないデータを故意に作り出したり、データなどを根拠なく書き換えたり、他人から得たデータや知見を許可なく自身の得たものとして記載してはならない。
- ・ 自らの所属する機関などで定める倫理規程を犯してはならない。

※補足：文部科学省や厚生労働省が定める「疫学研究に関する倫理指針」等では、必ずしも全ての研究に倫理審査を要求していません。よって、この場合の倫理審査の要否は病院や大学の規程に委ねられることになります。各機関の規程により倫理審査の対象となる研究については「倫理審査を受けた」旨を論文に記載する必要がありますが、それ以外の研究では特に倫理審査に関する事項を論文中に記載する必要はありません。

2) 個人情報の保護

- ・ 個人情報保護の観点から、たとえ学术论文であっても容易に個人が特定されないように、症例等の記載については十分に配慮しなければならない。

3) 利益相反

- ・ 研究に関して資金提供、雇用関係などによる利益相反がある場合には、関係した営利目的の企業・団体名を明記する。

(例) 本研究に関する費用は(企業名・団体名)が(一部)負担した。

1) ~3) についての詳細は、学会誌「医療情報学」の投稿規程をご参照ください。

ご不明な点やご質問等がございましたら、大会事務局 ([jami2019-ml@east.ntt.co.jp](mailto:jami2019-ml@east.ntt.co.jp)) 宛にメールでご連絡ください。抄録の記入例は別紙 3 にて示します。

## 日本医療情報学会看護学術大会の論文について

○山田 太郎<sup>1)</sup> 鈴木 花子<sup>2)</sup><sup>1)</sup>〇〇大学 <sup>2)</sup>〇〇病院

記入例

キーワード: 看護情報学, 文献検索

## 要約:

看護情報分野で研究論文を活用するために、看護情報に関する論文集の文献検索データベースへの収録状況ならびに、文献取りよせ方法について調査した。その結果、看護情報研究会論文集は JMEDPlus にしか登録されておらず、それ以前の看護システム研究会論文集については、医学中央雑誌、JMEDPlus とともに登録されていなかった。また、大学図書館での所蔵状況についても各論文集 4 図書館、7 図書館と少なく、オンラインジャーナルである医学薬学予稿集やメディカルオンラインには登録されていなかった。今後、ホームページへ書誌情報の公開、電子的な形態での保存などの課題がある。

## 1. はじめに

この文章は、2004 年当時に論文集の書式のひな形を作成するためだけに書きはじめたものである。

## 2. 背景

看護情報分野の発展のためには、知見を積み重ねていく必要がある。そのためには、まず、これまでの研究が簡単に検索でき、参照できる環境が必要であり、また、そのため研究の公開方法について考える必要がある。

また、看護情報学には基礎研究と応用分野があり、特に応用分野として、臨床でのシステム紹介が発展に寄与してきた。そのため、他分野の研究論文とは異なる論文形式も必要であると考えられる。

## 3. 方法

看護情報分野の研究が、どの程度文献データベースで検索できるかを調べるため、以下の 4 文献について医学中央雑誌 WEB 版<sup>1)</sup>と JMEDPlus<sup>2)</sup>で登録されているかを調べた。

- 1) 看護情報研究会論文集 (Vol.1~4, 2000~3 年)
- 2) 看護情報システム研究会論文集 (Vol.1~15, 1986~99 年)
- 3) 医療情報学連合大会論文集 (Vol.2~23, 1982~)
- 4) 医療情報学 (Vol. 2~22, 1982~)

また、これまで医療情報学会での議論や他学会での活動についてもホームページ等で調べた。

## 4. 結果

## 4.1. 文献データベースについて

各データベースの調査は、2004 年 3 月時点で行った。

## 医学中央雑誌 WEB 版

(番号はそれぞれ方法の章と対応している)

- 1) 未登録
- 2) 未登録
- 3) 第 6 回 1984~ (1994 は未登録)
- 4) 4 巻 1984~

## JMEDPlus

- 1) 未登録
- 2) 第 1 回 2000~
- 3) 第 21 回 2001~
- 4) 3 巻 1983~

JMEDPlus では、ほとんどの文献について JMEDPlus 側でキーワードや要約がつけられていた。なお、英文タイトル、著者キーワードについては書誌情報として表示されなかった。

また、国立国会図書館 3) のデータベースでは、看護情報システム研究会講演集の 8 巻以降、看護情報研究会論文集は 3 巻までが所蔵されていることになっていた。

## 4.2. 文献リストについて

日本医療情報学会 4) や日本看護科学学会 5) では、自学会誌について抄録を含む書誌情報が学会ホームページで一般公開されている。

また、日本災害看護学会 6) では、自学会誌に限らず、関連文献約 160 件が、分野ごとに整理され公開されており、検索システムもある。

看護情報研究会 7) については、これまでの論文集のタイトルと筆頭著者のみホームページに掲載している。

## 4.3. 論文の取り寄せについて

本研究論文集について、大学図書館の所蔵状況について NACSIS Webcat<sup>8)</sup> で検索した結果、「看護情報研究会論文集」については 4 大学、「日本医療情報学会看護情報システム研究会講演集」については 7 大学が所蔵していた

## 5. 考察

看護情報研究会の論文集は、利用率が高い医学中央雑誌データベースに登録されておらず、必ずしも検索環境がよいとはいえない。また、JMEDPlus は、著者が要約作成しなくても要約を作成してくれるが、より適切に検索してもらうには、著者自身の要約を論文集に掲載する必要があると思う。

また、英文については、今のところ検索できる環境がどこにもない。日本人以外が参考にすることはあまりないかもしれないが、今回の論文集では、これまでの論文集の形を継承しつけていただくことにした。

また、著者キーワードについては、昨今の全文検索データベースの普及で意義が薄れており、意味あるものにするには看護情報分野のキーワード集（シソーラス）の中から付与するようにすべきである。

また、印刷物についてはバックナンバーとして配布するには限りがあるので、PDF 形式などの電子媒体として残す必要があり、著者から直接電子的に提出していただく必要もあると考える。

最後に、ここまで読んで頂いた方に感謝する。

## 参考文献

- 1) 科学技術振興機構ホームページ.  
(<http://pr.jst.go.jp/>)
- 2) 医学中央雑誌刊行会ホームページ.  
(<http://www.jamas.or.jp/>)
- 3) 国立国会図書館.国立国会図書館 蔵書検索申込システム NDL-OPAC. (<http://opac.ndl.go.jp/>)
- 4) 日本医療情報学会ホームページ.  
(<http://plaza.umin.ac.jp/~jami/>)
- 5) 日本看護科学学会ホームページ.  
(<http://plaza.umin.ac.jp/~jans/>)
- 6) 日本災害看護学会.災害看護文献リスト.  
(<http://www.jsdn.gr.jp/bunken/bunken01.html>),  
(accessed 2004-3-31)
- 7) 医療情報学会看護部会ホームページ.  
<http://square.umin.ac.jp/jami/ns>
- 8) NACSIS Webcat. (<http://webcat.nii.ac.jp/>)
- 9) 医療情報学会誌編集委員会. 医療情報システム開発を取り扱った原著論文の作成のガイドライン—Shorliffe の論文作成指針について. 医療情報学 2001;20(4):555-6.